

経営比較分析表（令和3年度決算）

熊本県阿蘇市 阿蘇医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	21	-	ド透訓ガ	救 臨 が 感 へ 災 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
25,213	11,336	第2種該当	第2種該当	10：1

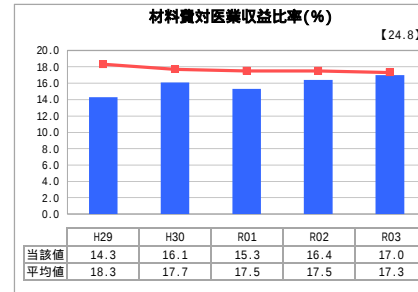
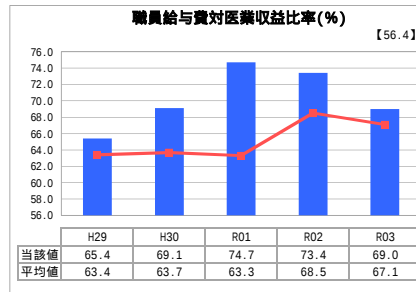
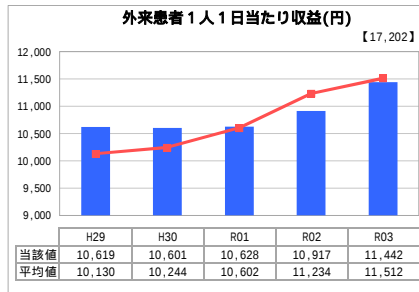
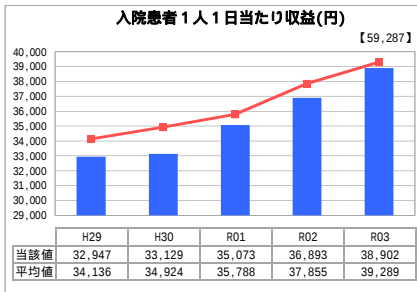
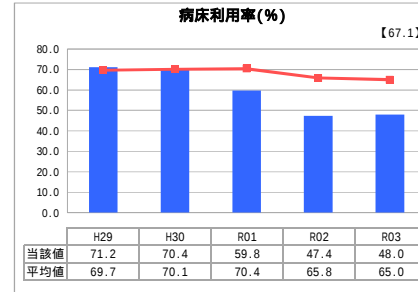
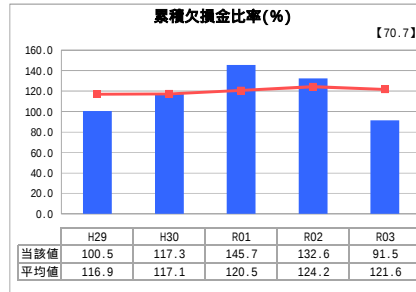
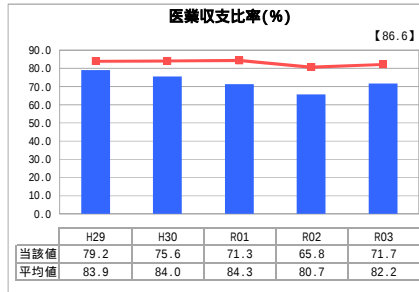
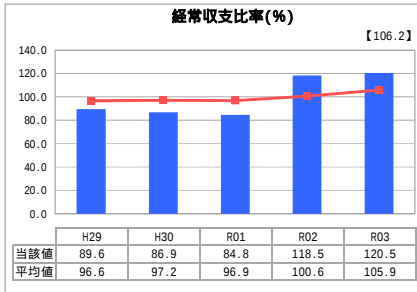
1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

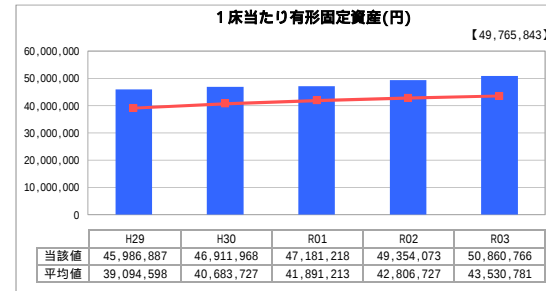
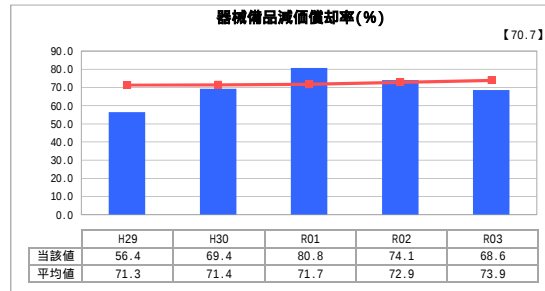
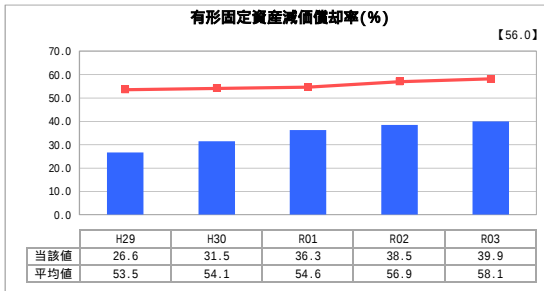
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
120	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	124
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
111	-	111

グラフ凡例 ■ 当該病院値（当該値） - 類似病院平均値（平均値） 【】 令和3年度全国平均
--

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

地域において担っている役割

・脳卒中・急性心筋梗塞の急性期拠点病院としての医療の提供
 ・救急医療・小児医療等の不採算部門に係る医療の提供
 ・へき地等の民間医療機関の立地が困難な過疎地域における一般医療の提供
 ・災害拠点病院として、災害時医療の提供
 ・協力型臨床研修病院として、基幹型研修病院と連携した初期研修医及び後期専門研修医の受入体制の整備
 ・糖尿病患者の多い地域であり、専門外来の開設や教育入院による重症化防止
 ・熊本県指定がん診療連携拠点病院として、専門外来や化学療法等の医療提供
 ・第二種感染症指定医療機関として、発熱外来の設置や新型コロナウイルス感染症患者の入院受入

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似病院平均を上回っているが、医療収支比率は類似病院平均を下回っている。令和3年度決算では、入院・外来患者1人1日当たり収益の改善により、は2.0%、は5.9%増加した。累積欠損金比率は、令和3年度決算が純利益512百万円と2年連続黒字化したことにより減少し、類似病院平均を30.1%下回っている。病床利用率は、4階病棟空床化の影響により、48.0%と類似病院平均を17.0%下回っている。入院患者1人1日当たり収益及び外来患者1人1日当たり収益は、類似病院平均を下回っているものの、診療報酬加算に向けた取組により上昇傾向にあり、類似病院平均との差は縮まっている。職員給与と費対医療収益比率は、医療収益の増により改善しているが、類似病院平均を1.9%上回っている。材料費対医療収益比率は、令和3年度決算では17.0%と類似病院平均を0.3%下回っている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、令和3年度決算は39.9%と類似病院平均を18.2%下回っている。器械備品の償却終了により、令和3年度決算は68.6%と類似病院平均を5.3%下回っている。令和3年度にCTの更新を実施し、令和4年度以降、MRI・アンギオ等の高額医療機器の更新を予定している。1床当たり有形固定資産は、類似病院平均を7,329,985円上回っている。

全体総括

平成26年8月の移転開院後、常勤医師の不足、移転新築に係る経費、退職引当金の増等により、純損失762百万円でスタートしたが、令和3年4月には常勤医師が11名（歯科医師1名を含む）となり、入院・外来ともに患者数は増加傾向にある。令和3年度決算は、新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れを行うため、病床確保を行ったが、診療報酬加算に向けた各種取組の成果により医療収益が令和2年度決算と比較し129.8百万円増加し、医療外収益での新型コロナウイルス感染症関連補助金と併せて、純利益512百万円となった。今後も阿蘇圏域の中核病院として、新型コロナウイルス感染症対応及び常勤医師の確保を最重要課題とし、診療報酬加算への継続的な取組みや経常費用の圧縮を図り、経常黒字化の継続及び累積欠損金の削減を目指す。